

小規模事業者

# 経済動向調査報告書

<那珂市>

2022年1月～3月期

那珂市商工会

## 1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

## 2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

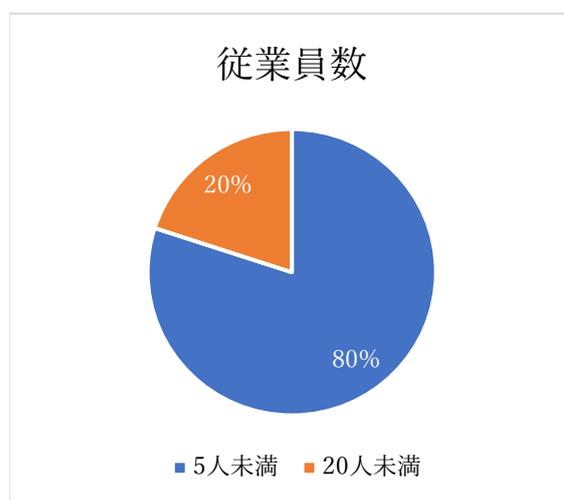
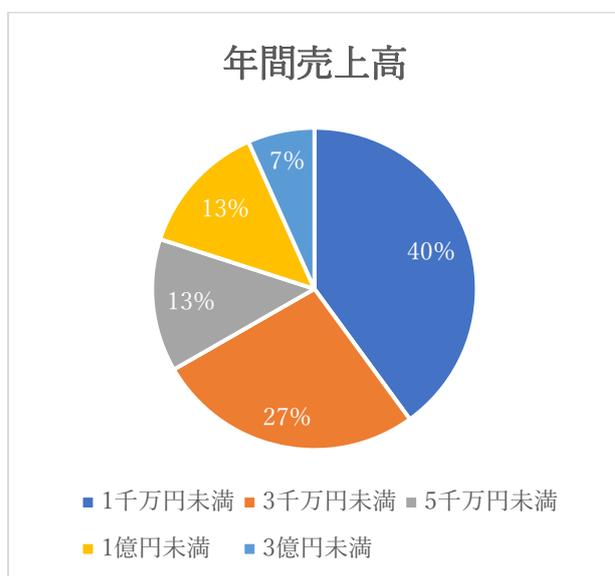
## 3. 調査事業者

- |               |    |
|---------------|----|
| ① 製造業         | 3社 |
| ② 建設業         | 2社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4社 |
| ④ サービス業       | 6社 |

## 4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

## 5. 事業者の規模



## I. DI分析

表1：2022年1月～3月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-26.7%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-33.3%
販売単価	-26.7%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
経常利益	-26.7%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-16.7%
資金繰り	-33.3%	-33.3%	-50.0%	-50.0%	-16.7%
人材確保	-13.3%	0.0%	-50.0%	-25.0%	0.0%
景況感	-40.0%	0.0%	-50.0%	-50.0%	-50.0%

- 前回（2021年10月～12月）に比べ、特に製造業と建設業だが、売上高の伸びが鈍化している様子が窺える。
- また、全体的に低迷しており、コロナ禍の影響から抜け出せずいる様子が窺え、長く続く業績不振で資金繰り悪化が加速し始めているように推測できる。
- 特に、建設業と小売業で業況の低迷が著しい。

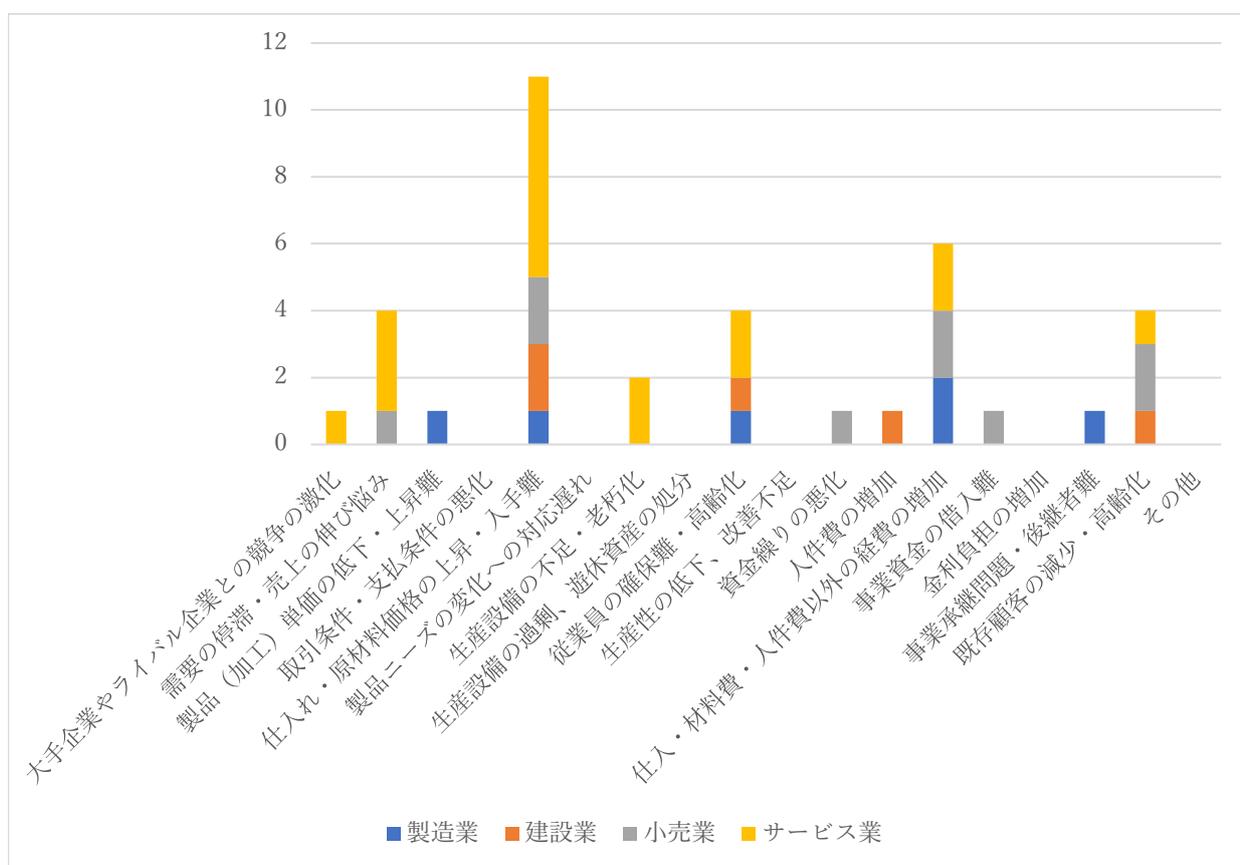
### DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

## II. 課題意識調査

図1 2022年1月～3月の課題意識



- 前回と比べ、需要・売上の低迷を訴える声以上に、経費増に頭を悩ませている様子が窺える。ウッドショックや半導体不足等は継続中であり仕入難や仕入値の高騰が収まらない中、さらに光熱費等も高騰しており、収益を圧迫している様子が窺える。
- 特に、サービス業において、問題が噴出している様子が窺える。前述の仕入難・経費増もサービス業において顕著に増えている他、需要の停滞や売上の伸び悩みなど販売面でも苦境に立たされていると推測できる。

### III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

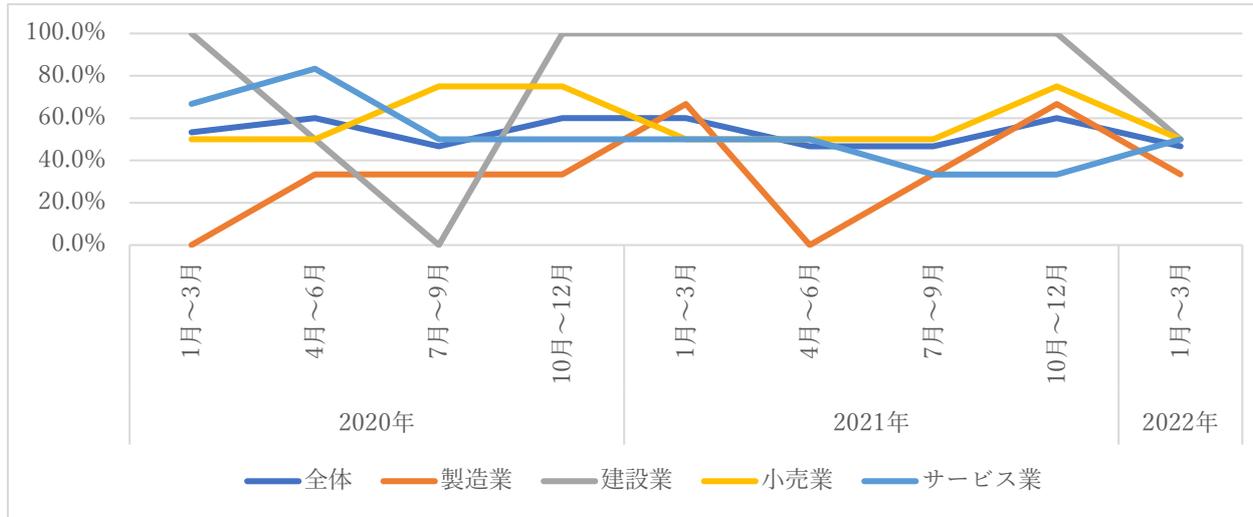
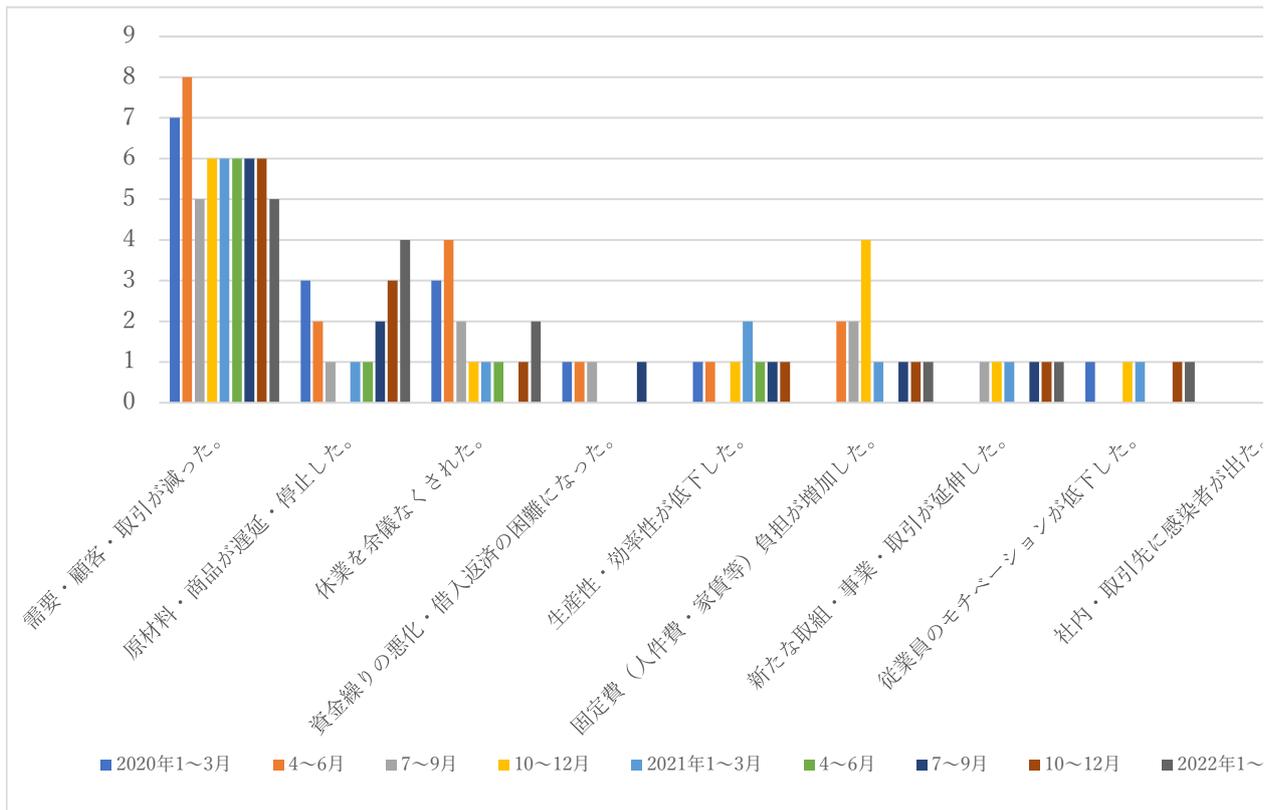


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 前回と比べると、サービス業を除いて、全般的にコロナ禍の影響は低下傾向にあるようだ。
- ただし、原材料・商品の遅延・停止はさらに増えており、やはりウッドショックや半導体不足など仕入難はまだ収束していないと推測できる。
- また、需要・顧客・取引等の減少も低下傾向にあるとは言え、まだ高い水準であり、市場の回復はまだ遠いと実感する。

以上